

会議名	第2回港にぎわい公園づくり推進計画及び整備マニュアル策定支援業務委託事業候補者選考委員会
開催日時	令和8年3月12日（木曜日）午前9時30分から午前10時30分まで
開催場所	港区役所914会議室
委員	<p><出席者></p> <p>横浜市立大学大学院都市社会文化研究科 客員教授 町田 誠（委員長） 港区街づくり支援部長 富田慎二（副委員長） 東京農業大学地域環境科学部造園科学科 教授 荒井歩（委員） 日本大学理工学部まちづくり工学科 准教授 押田佳子（委員） 港区麻布地区総合支所まちづくり課長 江川智美（委員）</p> <p><欠席者> なし</p>
事務局	街づくり支援部土木課土木計画係
会議次第	1 開会 2 第1回選考委員会議事録について 3 第一次選考結果について 4 第二次選考について 5 閉会
配付資料	<p>[席上配付]</p> <p>次第</p> <p>資料1 港にぎわい公園づくり推進計画及び整備マニュアル策定支援業務委託事業候補者選考（一次審査結果）</p> <p>資料1 補足 一次審査結果（事務局採点）補足資料</p> <p>資料2 港にぎわい公園づくり推進計画及び整備マニュアル策定支援業務委託採点基準表（第二次審査）（案）</p> <p>資料3 第3回港にぎわい公園づくり推進計画及び整備マニュアル策定支援業務委託事業候補者選考委員会進行スケジュール（案）</p> <p>資料4 港にぎわい公園づくり推進計画及び整備マニュアル策定支援業務委託プロポーザル第二次審査の実施に関する留意事項（案）</p> <p>資料5 港にぎわい公園づくり推進計画及び整備マニュアル策定支援業務委託事業候補者選考委員会議事録</p> <p>参考資料1 事業者提案書（A・B事業者）</p> <p>参考資料2 港にぎわい公園づくり推進計画及び整備マニュアル策定支援業務委託事業候補者募集要項</p> <p>参考資料3 港にぎわい公園づくり推進計画及び整備マニュアル策定支援業務委託事業候補者選考基準</p> <p>参考資料4 仕様書</p>

会議の内容	
【1 開会】	
【2 第1回選考委員会議事録について】	
事務局	(事務局より資料5について説明)
委員長	議事録について、意見がなければ決定とするが良いか。
委員全員	(承認)
【3 第一次選考結果について】	
事務局	(事務局より資料1について説明)
委員長	各委員は、審査に当たってのポイントを説明してください。
A委員	<p>A者はスケジュール管理がしっかりと記載されている。また、国や都の動向は的確に捉えているが、港区ならではの部分が弱い。また、ワークショップを実施しているが、1回でどこまで意見を聞けるのか、実施方法を確認したい。</p> <p>一方、B者はスケジュールの組み方がぎっくりとしているため、実行可能か確認する必要がある。オープンハウスを提案しているが、実施方法を確認したい。提案内容から区の現状は良く理解しており、実際に業務に従事する人への配慮がされている点は良かった。</p>
B委員	<p>A者は、スケジュール管理がしっかりしており、現実的なプロセスが提案されているが、区ならではの具体的な内容に踏み込めるかをヒアリングで確認したい。</p> <p>B者は、意見の吸い上げ方法に工夫がみられるが、提案内容は詰め込まれている印象がある。</p> <p>両者、一長一短があるので、それぞれの事業者が業務に従事した場合に、どのような強みがあり、その事業者ならではの提案ができるかなどをヒアリングで確認したい。</p>
C委員	<p>A者は、スケジュールや配置計画は良く記載されており、資料全体も表や図を使用し、見映え良くまとめられている。提案内容は整理されているが、様式8では、これまでの取組の記載に留まっているので、新たな取組みについて、ヒアリングで確認したい。</p> <p>B者は、従事者の配置が少ないが、提案内容については他自治体のことも良く研究している事業者であり、他自治体の取組等も取り込んだ提案となっている。業務の中で、どこまで区の特性を落とし込めるかは確認したい。</p>
D委員	A者は、計画と整備マニュアルについて、相互に関連性があり、業務も連動していることから、業務体制を分けて同時進行させる業務スケジュールが提案されていた。また、現行計画、区の公園等の特性・現状の把握・分析から

	<p>重点課題を抽出し、国や東京都の動向や区の上位計画を踏まえ、論理的でわかりやすい提案がされていた。さらに、整備マニュアルが具体的な提案があり良かったと感じた。</p> <p>B者は、これからの港区の公園等に求められる意義・役割の視点から、重視する5つの検討課題を抽出し、検討すべき施策の方向性や取り組み例が提案されている点を評価した。オープンハウス型意見聴取では、利用者等に意見をじっくり聞ける点を強みに感じた。</p> <p>総合的には、A者の方が様式6及び9が優れていると感じた。B者も現行計画について、熟知しており、二次審査でじっくりヒアリングしてみたいと思う。</p>
E委員	<p>A者は提案書が整理されており、B者と比較すると、作り込まれているが、提案内容は、概念的、抽象的で教科書どおりと感じた。</p> <p>一方、B者は、問題意識を前面に出した提案となっており、業務の中でも港区ならではの結論を導いてくれると感じた。</p> <p>それぞれ、二次審査のヒアリングで詳細を確認したい。</p>
委員長	各委員の意見を踏まえ、意見や採点を修正したい委員はいるか。
委員全員	(意見・修正なし)
委員長	それでは、A者、B者共に一次審査結果が基準の60%を超えているので、A者、B者をどちらも一次選考通過者とするので良いか。
委員全員	(承諾)
委員長	それでは、A者とB者を一次選考通過者とする。
【4 第二次選考について】	
事務局	(事務局より資料2～4について説明)
委員長	資料2の二次審査基準表について、事務局案で良いか。
委員全員	(異議なし)
委員長	続いて、資料3、4について、進行スケジュールやプレゼンの実施方法について意見はあるか。
B委員	ヒアリングの時間が15分となっており、一人当たり3分であるが、もう少しじっくり聞きたい。ヒアリング時間を一人当たり、4・5分程度に延ばしてほしい。
委員長	1人当たり5分として、25分程度に変更するのはいかがか。
委員全員	(異議なし)
事務局	ヒアリング時間を15分から25分程度に修正する。
委員長	事業者の二次審査へ入場できる人数が3人以内となっているが、人数として

	適当か。
A委員	二次審査では、評価項目の中に、回答力、理解力がある。また、限られた時間の中でのヒアリングになるため、的確に回答できる担当者がいた方がよい。5人以内に変更してはいかがか。
事務局	入場可能人数は、3人以内から5人以内に修正する。
委員長	その他、意見はあるか。
委員全員	(意見なし)
【5 閉会】	
事務局	(委員長より閉会の挨拶)